

南会津地方の空家情報サイトの提案

a2200812 菊池 紘平

背景

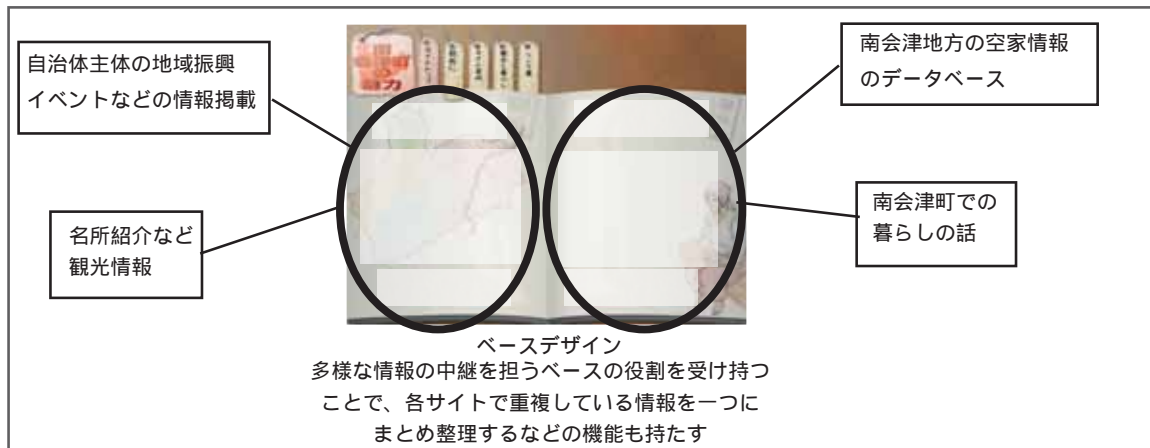
南会津地方は過疎化が進む地域として挙げられる。解決策のひとつとして地方に魅力を感じた都市部で暮らす人々に移住もしくは二地域居住を促すこと挙げられる。その切り口となるのが交流人口の促進であり、南会津地方も上述のように現在の観光客が魅力を感じる地域となるような活動をおこなっている。一方、過疎化に伴う空家の増加も問題となっており、その利活用方法も問題になっている。

目的

- ・南会津地方の活性化
- ・南会津地方への移住を目的とした南会津地方 PR
- ・南会津地方の魅力を広報する
- ・多様な情報の中継

南会津地方に興味関心を持ってもらい移住・二地域居住を促し地域の活性化を目的とする WEB サイトの提案。

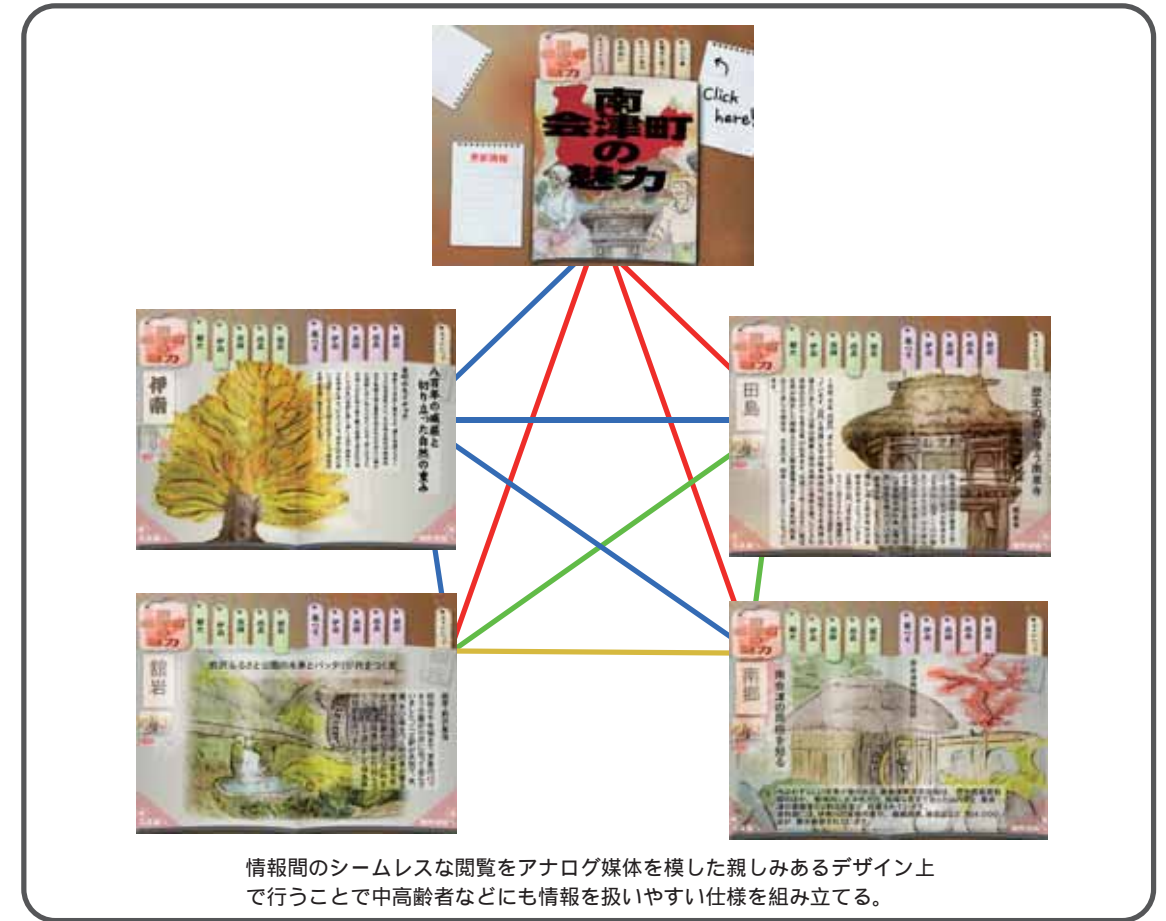
退職後、第二の人生を迎えようと雑然とした都市部から自然豊かな地方へと居住を考える中高齢者向けに南会津地方の魅力を発信し、シームレスに多様な情報を得ることができる WEB サイトを制作する。本制作では南会津地方の南会津町の四地域について制作する。



制作のコンセプト

本制作では中高齢者をターゲットに制作した。絞り込んだターゲット層に WEB という場でいかに親しみやすさを持たせ、南会津の魅力を伝達するかという点に注目した。ターゲット層である中高齢者層は WEB などの近年急発展した媒体よりも雑誌などの古くから存在するアナログな媒体の方が慣れ親しんでいると考えられ、既存の中高齢者向けの旅行雑誌やフリーペーパーを参考に WEB の情報収集の行いやすさの実現とより親しみある媒体の仮想空間上の再現を行った。

また、南会津町現地のイメージを印象的に伝達しようと考えた結果、写真素材などのリアルなイメージをダイレクトに配信するのではなく、取材で得た南会津の魅力を私自身が表現したい印象をより明確に再現することのできるイラストを用い、ベースのデザインを制作した。イラストでは CG などを用いず水彩絵の具やインク、鉛筆などを使用しターゲット層にも親しみやすい仕上がりを目指した。



考察・感想

今回の制作に際して納得のいく最終成果物のイメージ出しに苦勞し、多くの時間を費やした末漸く自分の表現したい南会津町の魅力の伝達と制作のコンセプトのベクトルを合致させることができた。WEB 媒体での情報揭示は関連性のある情報間の行き来をシームレスに関連付けることが可能であり、効率的な情報収集をすることができる。しかしながら情報間の関連性が多様であることから迷路のように高度な操作を要求されることもあり、高年齢者などには難しく感じられるのではないかと感じた。中高齢者に向けた情報揭示を目的とした今回の場合その点を無視して進めることは出来なかった。

この点を考え、どの世代にも親しみのある雑誌や本などのアナログな媒体を利用し WEB の敷居を落とすことは出来ないかと考えた。従来、雑誌や本等は多くの場合一方向に順を追っての情報を掲載するルールがあり、関連付けられる情報の組み合わせは限られ、目次・ページ間を繰り返し見直す必要があった。二つを見比べた際 WEB の情報の取り扱いに優れた点と雑誌媒体の世代に影響されない親しみを融合することは出来ないかと考え、今回の成果物のイメージを構築した。これにより、地域の観光情報の閲覧から親しみあるアフォードランスを通してスムーズに興味・関心を持った情報への閲覧が可能になった。アナログなイラストを配することでより親しみやすいテイストに仕上げることを心がけたが、雰囲気表現に適した水彩絵の具の取り扱いに慣れず手間取った。多くの試行錯誤を経て取材で得た南会津の自然の感動やそれと共存してきた文化を表現することができた。

この制作で私は会津という自然あふれる地に越えてはじめて雄大な自然と触れ合うことができた。この制作では WEB という PC 内における分野だったのでこういった自然や地方の文化を取材することができて新鮮な刺激となってよかったと思う。三次元空間で得られる感動は二次元空間で得られるものよりも何倍も効果的であることが認識でき、今後自分がなにか制作を行う際実在する三次元空間を意識することで少しでも感動を伝えられるものを作っていきたいと考えた。また、一貫したコンセプトを貫き WEB デザインを制作した今回の取り組みは大変大きな経験になり、継続的な作業の大変さや制作の計画の大切さをよく理解することができた。